

# ふれあい

No. 11

編集発行

上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

新雪が積もった1月のある日、出勤した私は荷物がたくさんあったため、一旦職員玄関に大きな荷物を置いた後、再び駐車場に向かいました。すれ違う子どもたちに「おはようございます」とあいさつをしながら自家用車に近付くと、2人の女の子が私のところに相談しにきました。「校長先生、朝、歩いて登校しているときに、雪の上に赤いマフラーが落ちていたの。でも、それを拾わないで、そのまま歩いて学校まで来ちゃったの。」と話します。通学班で登校しているため、見付けた瞬間に拾わなければ、途中で戻って拾いに行くわけにもいきません。歩いているうちに、マフラーを落とした人が困っているのではないかということが気になり、「拾ってあげればよかった…」という思いを募らせたまま学校に着いてしまったのでしょう。相談を受けた私は、「じゃ、一緒にそのマフラーを拾いに行こうか」と、2人の女の子を自家用車に乗せて、マフラーが落ちていた場所まで行きました。ところが、マフラーがありません。付近を探しましたが見つからないまま学校に戻りました。「きっと、あなたたちと同じような優しい子がほかにおいて、拾ってくれたんだよ。ありがとうね。」と話し、親切が積もった朝に、とても幸せな気持ちになりました。

私は、赤いマフラーは「かかわり」を象徴しているものと考えました。拾わなければ、かかわらないで過ぎてしまうものです。ただ、マフラーの持ち主のことを想像した子どもたちは、かかわりを求めたのです。マフラーを持ち主に届けてあげられれば、困ったことが解消され、双方が幸せを感じることができたことでしょう。今回は、そのようにはなりませんでしたが、マフラーの相談を私にしたことによって、私とのかかわりが生まれ、拾わずに後悔した思いを解消することができました。

さて、IT技術の急速な進化により、情報端末を通じて手軽に世界とつながることができる時代となりました。一方で手元の情報端末に視線を向けていれば、周りの人と目を合わせることを避けることができ、他者とかわることが少なくなっています。かかわりを遠ざける人は、道に落ちている赤いマフラーには気付きませんし、気付いたとしてもそれを落とした人が困っていることを想像して行動することはしません。それは、技術が進んだ幸せな社会と言えるのでしょうか。情報が進む中で得られる便利さを単なる幸せと捉えてしまうと、人間関係における深い絆やかかわりから生まれる本質的な幸せを見落としてしまうこととなります。情報化時代、AI時代だからこそ、人と人とのかかわりを重視していく必要があるのです。

私は、主体的にかかわろうとする意欲、かかわる実践力、かかわり方、かかわりからの学びは、非常に意義のあるものだと考えています。そこで、今年度4月のPTA総会の折にも、「かかわることを大切にしていきたい」と保護者の皆様に話しました。あれから、もうすぐ1年になります。春日小学校では来年度から教育目標を「よりよく かかわる」として、取り組んでいきたいと考えています。「よりよく」にも「かかわる」にも、令和の日本型教育を踏まえた意味を含んでいます。道端に落ちている「かかわり」を見逃すことなく、拾って学んでいける子どもたちの姿を大切にしていきます。

# 3学年 あおぞら

## <のびやか活動> 発見！わたしの春日山



春日山での活動を積み重ね、春日山の宝、すてきなこと、秘密、自慢したいこと、特徴などをたくさん見付け、ふるさとへの愛着や思いを深めています。



春・夏・秋と季節の変化を楽しみながら、春日山の豊かな自然を全身で満喫しました。



春日山の動植物や上杉謙信に関わる歴史、郷土の偉人についても興味・関心を広げました。

# ひかり学年(4年生)

学年目標

日々進化！  
ハッピー☆チャレンジ！  
ドリームライツ4年生

総合学習では、みんなで春日山を整備し守る活動に取り組み、春日山への愛着が増しました。10才を迎えた思いを届けた音楽発表会、命の大切さを学んだ保健の学習など、たくさんのわくわくドキドキがありました。

## 毎日がわくわく☆4年生すごろく(秋・冬)

## ☆10・11月 春日山環境整備作業

「看板清掃」



作業は大変でしたが、みんなのために熱心に取り組みました。心地よい疲労感でいっぱい。みんなの笑顔が最高でした。

## 「義の土一袋運動」

春日山の整備に使う土を本丸まで何度も往復して運びました。

響け！歌声  
届け！迫力ある演舞  
十才の思いを込めて



## ☆11月 音楽フェスティバル



## ☆1月 思春期講座

自分が生まれた命の  
奇跡を知り、感動で  
心がふるえました。

